

A N N U A L R E P O R T 2 0 0 6

年次報告書



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

ごあいさつ



財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

今井 敬

1990年に開催された生命の祭典「国際花と緑の博覧会」の理念を永く継承発展させるために、翌1991年11月1日に設立されたのが（財）国際花と緑の博覧会記念協会です。

以来、「自然と人間との共生」という理念の継承発展に関する事業を行うとともに、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的とした数々の事業を行ってまいりました。

2006年度は、当協会の主要事業である「コスモス国際賞（第14回）」に、インド科学研究所生態学センター教授のラマン・スクマール博士を選出しました。スクマール博士はゾウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究など、野生生物と人間との共存の分野ですぐれた業績を収められました。

普及啓発・継承発展事業におきましても、主催、共催、助成などさまざまな活動を行い、有意義な成果をあげることができました。

2007年度は、コスモ国際賞が第15回の節目を迎えることから、記念の事業を実施するほか、これまでの実績を踏まえながら、幅広い事業の実施や、組織運営の強化・刷新を図っていきたいと考えております。

皆様方の当協会に対するさらなるご支援とご協力をお願いいたします。

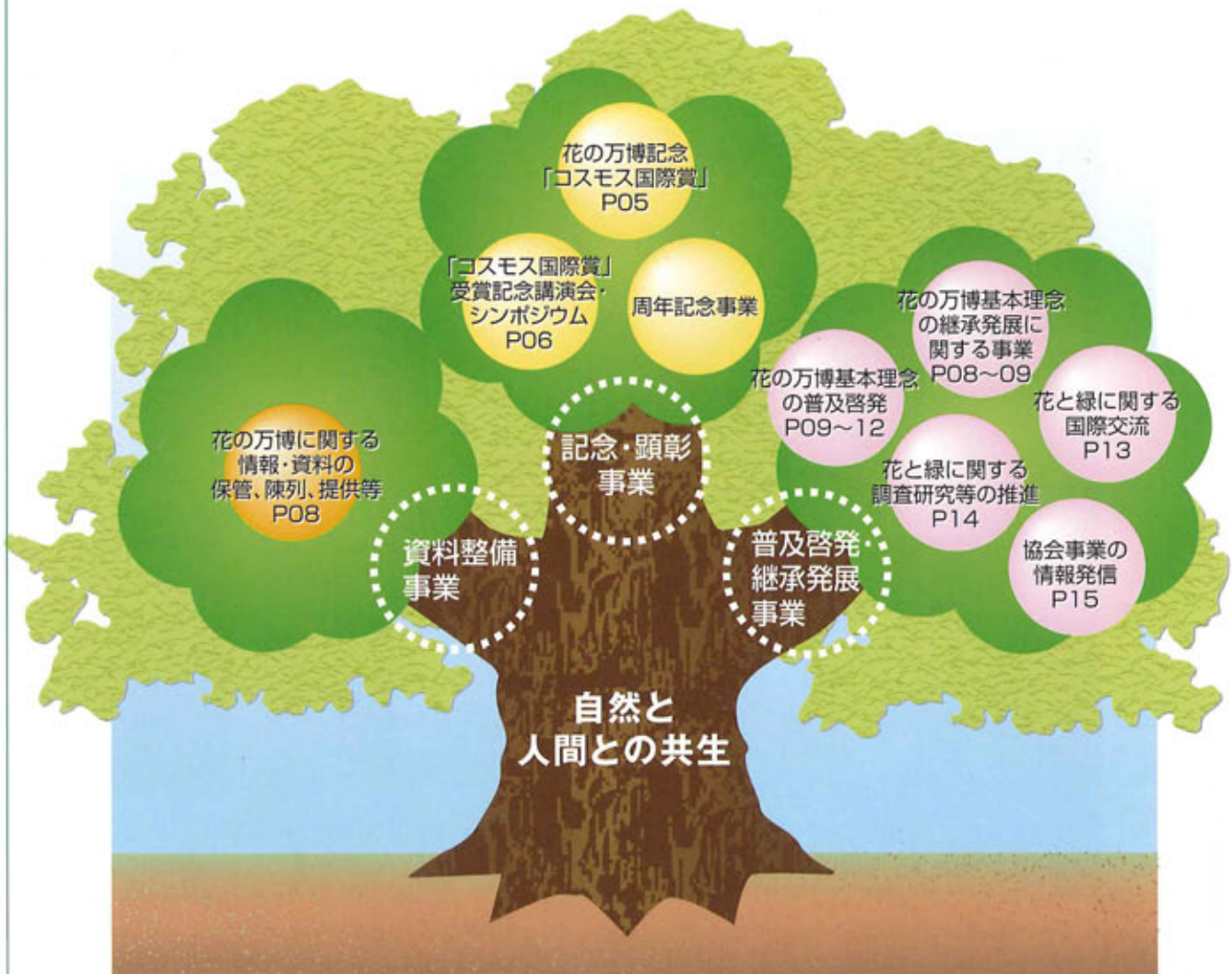
皇太子同妃両殿下ご接見



コスモス国際賞受賞者ラマン・スクマール博士夫妻は、皇太子同妃両殿下とお会いになった。

(平成18年10月30日 東宮御所にて)

国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という基本理念の継承・発展につながる多様な事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐくむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐろうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会に携わった者の責務であると考えます。

そのため、博覧会に携わった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

記念・
顕彰事業

花の万博記念「コスモス国際賞」

コスモス国際賞 国際花と緑の博覧会の「自然と人間との共生」という基本理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する花の万博記念「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」)の2006年(第14回)受賞者の選考結果を承認し、授賞式等を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等

学識経験者14名(国内10名、海外4名)によるコスモス賞委員会(以下「賞委員会」)及び学識経験者10名(国内8名、海外2名)によるコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」)を設置し、選考作業を行いました。

<平成18年(2006年)受賞者の選考・決定等>

- 第1回賞委員会開催(平成17年10月18日)
- 第1回選考委員会開催(平成18年1月19日)
- 第2回・第3回選考委員会開催(平成18年5月22日、5月24日)
- 第2回賞委員会(平成18年6月28日)

2006年コスモス国際賞受賞者にラマン・スクマール博士(インド科学研究所生態学センター教授)を決定。

第51回理事会開催(平成18年7月24日)

賞委員会の決定を承認し、同日、内外の報道機関に対し、記者発表等を実施。



2006年(第14回)コスモス国際賞受賞者

ラマン・スクマール博士

インド科学研究所生態学センター教授

ゾウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存というあまり開拓されていなかった分野での先駆的な取り組みとして国際的に認められた。

<平成19年(2007年)受賞者の選考>

- 第1回賞委員会開催(平成18年10月26日)
- 第1回選考委員会開催(平成19年1月23日)

2006年(第14回)コスモス賞授賞式等の開催

国内外の賓客及び招待者約400名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日 時：平成18年10月26日(木) 午後3時～午後5時
場 所：いずみホール [大阪市中央区]
出席者：約400名

次 第：開会 賞委員及び選考専門委員等の紹介 来賓紹介(1995年コスモス国際賞受賞者吉良龍夫博士、駐日インド領事館オーム・ブラカーシュ総領事、農林水産省佐久間隆大臣官房審議官、国土交通省小山亮一大臣官房審議官、太田房江大阪府知事、柏木孝大阪市助役) 主催者挨拶 授賞理由及び受賞者の紹介 受賞者入場 賞状・賞金目録贈呈 メダル贈呈 来賓祝辞 受賞者挨拶 祝賀演奏 閉会



受賞記念レセプション

日 時：平成18年10月26日(木) 午後5時30分～午後7時
場 所：ホテルニューオータニ大阪 [大阪市中央区]
出席者：約350名



記念・
顕彰事業

「コスモス国際賞」受賞記念講演会・シンポジウム

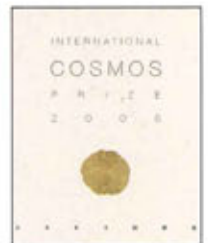
コスモス国際賞受賞記念講演会 コスモス国際賞授賞式の関連行事として、2006年受賞者ラマン・スクマール博士による講演を実施しました。

	●大阪	●東京
日時	平成18年10月24日(火) 13:30~16:30	平成18年10月29日(日) 13:30~16:30
場所	オーバルホール [大阪市北区]	ベルサール神田 [東京都千代田区]
テーマ	「スクマール博士の世界」	
対談・ シンポジウム	パネリスト ラマン・スクマール博士 山極寿一(京都大学大学院教授)	パネリスト ラマン・スクマール博士 岩槻邦男(兵庫県立人と自然の博物館館長) 増井光子(よこはまズーラシア園長) コーディネーター 林 良博(東京大学大学院教授)
参加者	約100名	約120名
後援	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、大阪府、大阪市、駐日インド大使館、日本生態学会、野生生物保全論研究会	



2006年コスモス国際賞報告書の作成

2006年(第14回)受賞者の業績、コスモス賞の趣意、構成、授賞式及び記念講演等を取りまとめた報告書(変形A4判 68頁)を作成(1,300部)し、国内外の関係者に配付しました。



花の万博記念「コスモス国際賞」委員会委員

平成18年12月31日現在

- 委員長 有馬 朗人 (財)日本科学技術振興財団会長
- 副委員長 長 倉 三 郎 日本学士院長
- 委員 岩 槻 邦 男 兵庫県立人と自然の博物館館長
- 委員 梅 棹 忠 夫 国立民族学博物館顧問
- 委員 グンナー・オークスト スウェーデン王立科学アカデミー事務局長
- 委員 河 合 隼 雄 京都大学名誉教授
- 委員 岸 本 忠 三 大阪大学大学院教授
- 委員 A.H.ザクリ 国連大学高等研究所所長
- 委員 鈴 木 昭 憲 東京大学名誉教授
- 委員 中 村 桂 子 JT生命誌研究館館長
- 委員 日 高 敏 隆 総合地球環境学研究所所長
- 委員 オーレ・フィリップソン 博覧会国際事務局(BIE)名誉議長
- 委員 サー・ギリアン・ブランス エデン・プロジェクト科学部長
- 委員 村 上 陽 一 郎 国際基督教大学大学院教授

花の万博記念「コスモス国際賞」選考専門委員会委員

平成18年12月31日現在

- 委員長 村 上 陽 一 郎 国際基督教大学大学院教授
- 副委員長 小 山 修 三 吹田市立博物館館長
- 委員 ナタラジャン・イシュワラン ユネスコ生態学・地球科学部門長
- 委員 井 手 久 登 東京大学名誉教授
- 委員 今 福 道 夫 京都大学大学院教授
- 委員 餌 取 章 男 科学ジャーナリスト
- 委員 大 熊 由 紀 子 国際医療福祉大学大学院教授
- 委員 加 藤 雅 啓 国立科学博物館植物研究部長
- 委員 川 勝 平 太 国際日本文化研究センター教授
- 委員 バトリシア・ライト ストーンニー・ブルック大学教授

コスモス国際賞歴代受賞者

記念協会の主事業である花の万博記念「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

- | | | |
|---|---|--|
| 第1回 平成5年(1993)
ギリアントルミー プランス
Sir Ghillean Tolmie Prance |  | イギリス・王立キュー植物園園長
南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全体の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。 |
| 第2回 平成6年(1994)
ジャック フランソワ バロー
(物故)
Dr. Jacques Francois Barrau |  | フランス・パリ国立自然史博物館教授
太平洋の島々の自然と人々の暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これをもとに人間と食糧をテーマに、全地球的な視点からユニークな考察を発表した。 |
| 第3回 平成7年(1995)
吉良 龍夫
Dr. Kira Tatuo |  | 日本・滋賀県顧問、前琵琶湖研究所所長、大阪市立大学名誉教授
光合成による植物の有機物生産の定量的研究をもとに、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割をつとめた。 |
| 第4回 平成8年(1996)
ジョージ ビールズ シャラー
Dr. George Beals Schaller |  | アメリカ・野生生物保護協会科学部長
40年にわたり、世界各地で様々な野生動物の生態と行動を研究。『マウンテンゴリラ・生態と行動』『ラストパンダ』など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。 |
| 第5回 平成9年(1997)
リチャード ドーキンス
Dr. Richard Dawkins |  | イギリス・オックスフォード大学博士
1976年に出版された著書『利己的な遺伝子』で、生物学の常識を覆す大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して、学会に論争を起こした。 |
| 第6回 平成10年(1998)
ジャレド メイスン ダiamond
Dr. Jared Mason Diamond |  | アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部教授
医学部教授として生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらをもとに人類の歴史的な発展を再構成した。 |
| 第7回 平成11年(1999)
ウー チェン イー(呉 征鎰)
Dr. Wu Zheng-Yi |  | 中国・中国科学院昆明植物研究所教授、名誉所長
地球上で植物の種の最も豊かな地域の一つである中国全土の植物約3万種を網羅した『中国植物誌』の編集を主宰し、開発途上国における生物多様性に貢献した。 |
| 第8回 平成12年(2000)
デービッド フレデリック アッテンボロー
Sir David Frederick Attenborough |  | イギリス・映像プロデューサー、自然誌学者、動物学者
野生動物のドキュメンタリー映像のバイオニア。地球上の様々な動物植物についての卓越した映像を通して、全世界の人々に生命の本質について訴えた。 |
| 第9回 平成13年(2001)
アン ウィストン スパーン
Prof. Anne Whiston Spirn |  | アメリカ・マサチューセッツ工科大学教授
「都市と周辺環境とが調和した地域づくり」を提唱、自然と都市との共生をテーマに地域計画に取り組んだ。また自然と人間との関わりについて「景観を読む」という新しい視点を提示した。 |
| 第10回 平成14年(2002)
チャールズ・ダーウィン研究所
The Charles Darwin Research Station |  | エクアドル
ガラパゴス諸島の陸上、海域両面にわたる生物と生態系の調査を行い、島の自然を守る直接活動のほか、島の住民への環境教育、島の現状を全世界に伝える出版など、多角的な活動を行った。 |
| 第11回 平成15年(2003)
ピーター ハミルトン レーブン
Dr. Peter Hamilton Raven |  | アメリカ・ミズーリ植物園園長
花と昆虫の共進化に関する研究を発表、花生物学分野の研究の端緒をつくった。人類生存には、地球の生物多様性保全が不可欠であると世界で最初に提起した。 |
| 第12回 平成16年(2004)
フーリヤ カラビアス リジョ
Prof. Julia Carabias Lillo |  | メキシコ・メキシコ国立自治大学理学部教授
常に途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、徹底したフィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合する手法でプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題にすぐれた成果を挙げた。 |
| 第13回 平成17年(2005)
ダニエル・ポーリー
Dr. Daniel Pauly |  | カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授
幅広い視野と長期的視点で漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究し、海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデルの開発など、海洋生態系と資源研究の分野ですぐれた業績を収めた。 |
| 第14回 平成18年(2006)
ラマン・スクマール
Dr. Raman Sukumar |  | インド科学研究所生態学センター教授
ゾウと人間との生態関係や軋轍への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。 |

※肩書きは受賞時のものです。

資料整備 事業

花の万博に関する情報・資料の保管、陳列、提供等

公式記録等の保存に関する調査 博覧会の公式記録等動画フィルム等の半永久的な保存のため実施しています。一昨年度にハイビジョンフィルム(263本 約250時間)、昨年度にMⅡテープ及び一部VHSテープ(386本 約342時間)のデジタルダビングを行い、本年度は36mmフィルム等のダビングを実施しました。

映像による日本植物誌事業 日本の野生植物種を動画により撮影する「映像による日本植物誌(PPH:プラントフォトハンティング)」は、これまで約850時間、約4,000種の野生種を収録しました。これを基に、平成18年度は、「アジサイ」「ユリ」の2種の作品を制作し、タイで開催された大国際園芸博覧会「ロイヤルフローラ」にて放映しました。なお、作品は当協会ホームページに掲載して紹介しています。



情報等の提供 上海万博及び各種イベント等の主催者に対し、花の万博のノウハウ、情報等の提供を行いました。

海外・国・地方自治体	4件
企業等	4件

普及啓発・ 継承発展 事業

花の万博基本理念の継承発展に関する事業

伝統園芸植物調査 世界的にも優れた日本の伝統園芸植物について、その現状の把握、植物の保存・活用、栽培・育種技術の継承、組織や人材等に関する情報を収集し、伝統園芸植物の保存活用にかかる研究会を設置し、課題について検討を行いました。

KOSMOSフォーラム わが国の第一線の科学者の英知を集め、宇宙の新しい全体像を包括的に考察し、その中で人類の果たすことができる役割を探ろうというのがKOSMOSフォーラムです。平成18年度は「21世紀の新しい人間観を探る」を統一テーマとし、3回のフォーラムを開催しました。

第9回 テーマ「科学技術と死生観」 ～生命領域の技術化を問う～

日 時：平成18年9月10日(日) 午後1時30分～午後4時30分
場 所：オーバルホール [大阪市北区]

基調講演：テーマ「現代社会と宗教～人間を考える」

講 師：森本公誠(東大寺別当)

パネリスト：岩槻邦男(兵庫県立人と自然の博物館館長)

中畑龍俊(京都大学大学院医学研究科教授)

齋田清一(大阪大学大学院文学研究科教授)

コーディネーター：位田隆一(京都大学大学院法学研究科教授)

参加者：約120名

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、
大阪府、大阪市、日本学士院



普及啓発・
継承発展
事業

第10回 テーマ「人間の“心”の発生と進化について」

日時：平成18年11月19日(日) 午後2時～4時30分

場所：都市センターホテル 5Fオリオン [東京都千代田区]

フォーラム

パネリスト：甘利俊一（理化学研究所脳科学総合研究センターセンター長）

小山修三（吹田市立博物館館長）

長谷川眞理子（総合研究大学院大学教授）

野矢茂樹（東京大学大学院総合文化研究科助教授）

コーディネーター：村上隆一郎（国際基督教大学大学院教授）

参加者：約180名

後援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、大阪府、大阪市、日本学士院



第11回 テーマ「人間はどこから来て、どこに向かうのか
～宇宙の中の人間存在の意味～」

日時：平成19年2月3日(土) 午後2時～4時30分

場所：TOKYO FM HALL [東京都千代田区]

フォーラム

パネリスト：合原一幸（東京大学大学院情報理工学系研究科教授）

大橋良介（大阪大学大学院文学研究科教授）

川勝平太（国際日本文化研究センター教授）

斎藤成也（国立遺伝子研究所教授）

コーディネーター：松井孝典（東京大学大学院教授）

参加者：約270名

後援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、大阪府、大阪市、日本学士院



花の万博基本理念の普及啓発

コスモスセミナー 平成18年度は、前年度に引き続き屋外での自然観察（フィールド型）セミナー並びに一般向け講演会、講師派遣型セミナーを実施しました。

「自然観察教室」
～生まれ昆虫
好きな子供たち
2006～

開催日：平成18年7月31日(月)～8月2日(水)

場所：関西学術研究都市高山地区アイアイランド [大阪府四條畷市]

講師：保田淑郎（大阪府立大学名誉教授）

平賀壮太（前熊本大学教授、京都大学医学研究科非常勤研究員）

谷 幸三（大阪産業大学講師）

南 尚美（奈良生物研究会幹事）

参加者：近畿圏の小学5・6年生及び中学1年生 34名

特別協力：(財)奈良先端科学技術大学院大学支援財団

後援：大阪府、大阪府教育委員会、奈良県、奈良県教育委員会、
四條畷市、四條畷市教育委員会、生駒市、生駒市教育委員会、
日本環境教育学会、日本生態学会、日本昆虫協会、
JT生命誌研究館



記録CD-ROM



一般向け講演会

東京港区の「アークガーデン」など多くの優れた活動を行っている杉井明美氏の講演と、2名の活動代表者から事例の報告を通して、会場との意見交換をしながら都市緑化やガーデニングの活動のあり方について考えました。

テーマ：アークガーデンから発信する「花のある暮らし」
～これからの花のまちづくりを考える～

日時：平成19年3月11日(日) 午後1時30分～3時30分

場所：大阪市立中央図書館 5階大会議室

講師：杉井明美（園芸家）

パネリスト：海原 幸（山田池公園花のくらぶ会長）

松浦艶子（此花区緑化リーダー連絡協議会会長）

共催：大阪市立中央図書館

後援：農林水産省近畿農政局、国土交通省近畿地方整備局、大阪府、大阪府教育委員会、大阪市

その他：造園CPD認定プログラム（2単位）

参加者：約180名



2006年度事業実績

普及啓発・ 継承発展 事業

小学校講師派遣 テーマ「ビオトープの活用・生き物の観察」
日 時：平成18年9月12日(火) (3・4時間目)
場 所：池田市立秦野小学校 [大阪府池田市]
講 師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)
参加者：小学5年生134名



テーマ「自然・いのちについて」
日 時：平成18年11月21日(火) (6時間目)
場 所：泉佐野市立北中小学校 (大阪府泉佐野市)
講 師：中村柱子 (JT生命誌生命館館長)
参加者：小学4・5・6年生282名

テーマ「川や池など水の中にすむ生き物たち」
日 時：平成19年2月16日(金) (3時間目)
場 所：藤井寺市立藤井寺小学校 [大阪府藤井寺市]
講 師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)
参加者：小学4年生145名



テーマ「生き物が生きていることとは」
日 時：平成19年2月26日(月) (3・4時間目)
場 所：大阪市立城東小学校 [大阪府大阪市]
講 師：谷 幸三 (大阪産業大学講師)
参加者：小学6年生74名

◆花と緑に関する全国的な普及啓発

第16回(2006年) 全国花のまちづくりコンクール 花の万博の開催を契機に、「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして、農林水産省並びに国土交通省の提唱により平成3年度に創設されたコンクールです。実施主体である「花のまちづくりコンクール推進協議会」のメンバーとして参画し、以下のとおり実施しました。

応募数：1,207件

入 賞：農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞 各2点をはじめ11点
表彰式

開催日：平成18年10月27日(金)

場 所：虎ノ門パストラル [東京都港区]

受賞者：市町村、団体、個人、企業の4部門

主 催：花のまちづくりコンクール推進協議会

〔(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(財)日本花の会、(財)都市緑化基金、(財)日本花普及センター〕

また、平成18年度は第23回全国都市緑化おおさかフェアと世界バラ会議が大阪市で同時期に開催されたことから、これに合せて「全国花のまちづくり大阪大会」を次のとおり開催しました。

開催日：平成18年5月11日(木)

場 所：メルパルク大阪 [大阪府淀川区]

シンポジウム

基調講演

テーマ：日欧文化交流～花の都パリ、花のまちづくり～

講 師：磯村尚徳 (元NHK特別主幹)



ジャパンフラワー
フェスティバル
2006 in かがわ

ジャパンフラワーフェスティバルは、花の万博を契機に、花いっぱい
の国土、社会並びに生活を実現する国民的運動として、農林水産
省の提唱により平成3年度から開催されています。今回は第16回
目であり、ジャパンフラワーフェスティバル2006 in かがわ実行
委員会に参画し、次のとおり開催しました。

開催日：平成19年3月2日(金)～4日(日)

場 所：サンポート高松 栗林公園 [香川県高松市]

入場者：約146,000人

主 催：ジャパンフラワーフェスティバル2006 in かがわ実行委員会

〔(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(財)日本花普及センター、香川県、高松市ほか〕



◆花の万博開催の地元における普及啓発（府市理念継承事業）

花の万博開催の地元において基本理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と共同して実施しました。

第22回 大阪府 都市緑化フェア

花と緑あふれる豊かな街づくりを進めるため、都市緑化に関する府民の意識の高揚や知識の普及を図ることを目的に、毎年10月の都市緑化月間に開催しています。平成18年度は箕面市で開催された第22回大阪府都市緑化フェアの実行委員会に参画し、支援を行いました。また、会場内の出展ブースにおいて協会のPRコーナーを設け、パネル展示や花の種入りティッシュ等の配布を行いました。

開催日：平成18年9月30日（土）～10月1日（日）

場 所：箕面市芦原公園 [大阪府箕面市]

来場者：3,100人

主 催：第22回大阪府都市緑化フェア実行委員会

内 容：花苗・球根の配布、植木市、緑化相談、緑化講習会など



緑化ボランティア リーダー養成講座

共 催：（社）大阪府公園・都市緑化協会

地域の魅力・まちの顔づくりプロジェクトをはじめ大阪府におけるまちの緑化を府民協働により推進していくため、緑化ボランティア活動の中核となるリーダーの養成を行いました。



まちの緑花実地 講習

共 催：（財）大阪府公園協会

府営公園をはじめ、まちにおける持続可能で美しい緑化を府民と共に推進していくために、緑花活動を行っている現場での講習会を実施しました。また、都市の緑化の中心施設である府営公園を核として、緑化啓発活動などを効果的に行い、府民協働による都市緑化を推進しました。



「おおさか 葦プロジェクト」

第23回全国都市緑化フェア（主会場：大阪城公園）において、子どもによる葦船の製作と大阪城のお堀へ進水させる「花と緑の葦船製作」や葦の茎や葉を使って様々な工芸品をつくる「鶏殿の葦で作ろう！体験教室」などを実施しました。

開催日：平成18年4月1日（土）～5月28日（日）



大阪フラワー・ ガーデンショー 2006

市民が花や緑のまちづくりへの関心と花・緑を育てる伝統や文化への理解を喚起し普及啓発を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催されました。当協会も大阪フラワー・ガーデンショー2006実行委員会に参画し、次のとおり開催しました。

開催日：平成18年4月21日（金）～23日（日）

場 所：花博記念公園鶴見緑地内

水の館展示ホール及び付属展示場 [大阪市鶴見区]

主 催：大阪フラワー・ガーデンショー2006実行委員会

〔（財）国際花と緑の博覧会記念協会、大阪園芸商組合、大阪園芸サービス協同組合、大阪市、（財）大阪市スポーツ・みどり振興協会ほか〕



◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催による実施、また協賛等を行いました。

都市緑化推進 運動

国土交通省、都道府県、市町村が主催して毎年全国的規模で実施される春の都市緑化推進運動期間（4～6月）及び都市緑化月間（10月）における「みどりの愛護」のつどいや都市緑化キャンペーン活動等の事業に対して、都市緑化推進運動協力会に参加し、各種の国土交通省関連団体と共に協力等を行いました。

まちづくり月間

平成18年6月の第24回「まちづくり月間」における中央行事（表彰式、シンポジウム）、写真コンテストや標語募集等の事業実施について、関係団体と共に実行委員会に参画、協賛をしました。

2006年度事業実績

普及啓発・ 継承発展 事業

近畿都市緑化祭 近畿地方における都市緑化を推進するため、都市圏内の行政団体等が連携して、毎年10月の都市緑化月間中に京阪神の府県指定市が持ち回りで開催しています。平成18年度は、京都府で開催された「グリーンサーカス2006」に対して事業の支援、協賛を行いました。

開催日：平成18年10月8日(日)～9日(祝)
場 所：京都市立梅小路公園 [京都府京都市]
来場者：約21,000人
主 催：近畿都市緑化推進連絡協議会、みどりの5団体合同フォーラム
内 容：参加型花壇づくり、ピオトープ視察、緑化相談など



後援等一覧

● 催事名 (開催期間)	● 開催場所	● 主催	● 名義
第10回大阪府花と緑の街づくりコンクール (H18.4.1～10.31)	大阪府下	(社)大阪府公園・都市緑化協会	後援
第29回ハンギングバスケット展 (H18.4.4～4.16)	花博記念公園鶴見緑地内「咲くやこの花館」	大阪市、(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会、咲くやこの花館	後援
世界バラ会議大阪大会2006 (H18.5.11～5.17)	大阪国際交流センター他 (大阪府大阪市)	(財)日本ばら会、大阪市、(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会	後援
第8回「国際バラとガーデニングショー」 (H18.5.19～5.24)	インボイスSEIBUドーム (埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニングショー組織委員会	後援
エコ・グリーンテック2006 (H18.5.24～5.26)	東京ビッグサイト (東京都江東区)	エコ・グリーンテック実行委員会、環境緑化新聞	協賛
第54回大阪朝顔品評会 (H18.7.26～7.30)	大阪市花と緑と自然の情報センター(大阪府大阪市)	大阪朝顔会	後援
植物情報ナビ「はなせんせ」 (H18.5.1～H19.3.31)	携帯電話サイト	栽培植物分類名称研究所	後援
第30回ハンギングバスケット展 (H18.9.26～10.15)	花博記念公園鶴見緑地内「咲くやこの花館」	大阪市、(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会、咲くやこの花館	後援
平成18年度「都市緑化月間」 (H18.10.1～10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協賛
第43回大阪城菊の祭典 (H18.10.16～11.12)	大阪城公園内(本丸地区)	大阪市	後援
第57回日本学校農業クラブ全国大会 平成18年度愛媛大会 (H18.10.25～10.26)	松山市、今治市、西条市、西予市	日本学校農業クラブ連盟、日本農業クラブ四国連盟、愛媛県学校農業クラブ連盟	後援
かんさいフラワーショー2006 (H18.11.24～11.26)	花博記念公園鶴見緑地内「水の館ホール」	かんさいフラワーショー実行委員会	後援
平成18年度「大阪府立花の文化園幼児・小中学生花の絵画展」 (H19.1.5～2.4)	大阪府立花の文化園 (大阪府河内長野市)	大阪府、(財)大阪府みどり公社	後援
小品盆栽フェア「第15回春雅展」 (H19.3.23～3.25)	花博記念公園鶴見緑地内「水の館」	(社)全日本小品盆栽協会	後援

ラフレシアの 貸出し・出展

博覧会に展示された世界最大の花「ラフレシア」(封入標本)を、一部修復の上、国立科学博物館「花展」に出展しました。



花と緑に関する国際交流の推進

タイ王国国際園芸 博覧会出展参加 事業

タイ王国で開催されたチェンマイ国際園芸博覧会「ロイヤルフローラ・ラーチャブルック2006」を記念して「記念国際シンポジウム」を現地にて開催しました。また、日本国政府が公式参加したことに伴い、屋外展示出展及び屋内展示出展に参画をしました。

記念国際シンポジウムの開催

世界の各地域や都市での花と緑のまちづくりや文化について話し合い、花と緑の新たな国際交流を促進することを目的として、次のとおりシンポジウムを開催しました。

日 時：平成18年11月8日(水) 午後1時～5時

場 所：ロータスホテル・パン・スアン・ケウ【チェンマイ市内】

テーマ：花と緑の国際交流 ～国際的な花と緑の文化の新たな模索～

来場者：約100名

パネリスト：レオン博士（シンガポール公園整備公団総裁）

ルーク博士（ドイトーン発展プロジェクトの植物副責任者）

湯浅浩史（東京農業大学教授）

コーディネーター：涌井史郎（桐蔭横浜大学教授）



屋内展示出展への参画

農林水産省の屋内展示コーナーにおいて、わが国を代表する花の文化である生け花の体験イベント、自然と花に親しめるクイズコーナー等の出展を行いました。また、フラワーデザインコンクール優秀者による作品展示に参画しました。



屋内展示出展への参画

国土交通省の担当する日本庭園の共同出展実行委員会に参画し、庭園整備の事業協力を行いました。



世界バラ会議 大阪大会2006 参加事業

世界バラ会連合(WFRS)が中心となり、3年に1度開催する世界バラ会議大阪大会2006の世界会議(アジア初の開催)実行委員会に参画しました。

開催日：平成18年5月11日(木)～17日(水)

テーマ：Melody of Oriental Roses (東洋のバラの調べ)

参加状況：27カ国約700人



普及啓発・
継承発展
事業

花と緑に関する調査研究等の推進

花の万博の基本理念の継承発展または普及啓発に資する調査研究、技術開発、活動、行催事等を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与するため、平成18年度事業の助成を実施するとともに、平成19年度助成事業の公募、審査、助成対象の決定を行いました。

平成19年度助成
事業

①公募及び審査

公 募：平成18年10月16日(月)～11月27日(月)

応募案件：34件

審 査：次のとおり審査を行いました。

・一次審査：平成18年12月11日(月)～12月22日(金)

審査会委員が分担して提出書類にもとづく審査

・二次審査：平成19年2月8日(木)、2月19日(月)

大阪・東京の2会場で応募団体のプレゼンテーション審査

②助成対象の決定

審査会の審査結果報告をもとに助成対象の14団体を決定しました。

花博記念協会助成事業審査会 委員 平成19年3月31日現在

委員長	近藤 公夫	奈良女子大学 名誉教授
副委員長	尼崎 博正	京都造形芸術大学 教授
委員	今西 英雄	東京農業大学農学部 教授
委員	佐倉 統	東京大学大学院情報学環 教授
委員	須磨佳津江	キャスター・ジャーナリスト
委員	長村 智司	大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長
委員	服部 明世	大阪芸術大学芸術学部 教授
委員	鷺谷いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

平成19年度
助成対象一覧表

事業区分	事業名	助成対象者名	
調査研究開発	越前町立福井総合植物園植物標本整理事業	財団法人 越前町朝日公共施設管理公社	
	都心における街区公園の再整備についての調査研究	特定非営利活動法人 国際造園研究センター	
	樹木のフェノロジー調査とその手法開発プロジェクト	樹形研究会	
	国際シンポジウム「伝統中国の庭園と生活空間」	国際シンポジウム「伝統中国の庭園と生活空間」 実行委員会	
	トウツバキ園芸品種の保全に関する日中共同研究	財団法人 花と緑の銀行	
	中尾佐助植物採集資料のデータベース化による活用研究	照葉樹林文化研究会	
	藤本義昭イネ科植物コレクションのデータベース整備	兵庫県自然保護協会	
	持続的地域づくりと湿地の保全再生に関する国際交流	特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合	
	活動・行催事	白神山地ブナ林の森林構造及び森林動態調査研究	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会
	白神山地ブナ植樹フェスタ in 赤石川開催事業	特定非営利活動法人 白神山地を守る会	
塩屋海岸における絶滅危惧海浜植物群落の保全活動	伊予農絶滅危惧海浜植物群保全プロジェクトチーム		
“花のまちづくり運動”	ガーデンシティコープ金剛東すみれ会		
水源林見学会	社団法人 木曾三川水源造成公社		
ほたるの源流に「アジサイの森」をつくろう	高千穂森の会		

平成18年度
主な助成対象事業



西表島サンゴの保全・再生に関する調査



熊本城築城400年記念
熊本城内植物相調査



植物多様性保全活動と植物園の役割
—市民への啓発と広報—
牧野植物園(高知県)にて



巨樹・古木「おじいさんの木を見つ
けよう」カキの実取りのイベント
箕面小学校(大阪府)にて

協会事業の情報発信

ホームページ 運営

当協会ホームページや「コスモス国際賞」、「KOSMOSフォーラム」の各ウェブサイトを実施事業の理解促進・普及のために活用するとともに、情報の更新、サイトの維持管理を行いました。

また、フリー百科事典「ウィキペディア」にコスモス国際賞の情報を掲載しました。



<http://expo90.jp/>



<http://www.expo-cosmos.or.jp/>



<http://www.kosmos-forum.org/>

コスモス国際賞 パンフレットの 刷新

各受賞者の最新経歴を掲載した冊子を作成しました。



プレスネット ワークの構築

当協会事業の発信性を高めるため、新聞社との共催事業を実施する等、協力体制（プレスネットワーク）の構築を図りました。

毎日新聞社との共催 小中学校における生態園づくり (特別協力：大阪府立城山高等学校)

場 所：寝屋川市立点野小学校 [大阪府寝屋川市]
内 容：バタフライガーデン

場 所：豊能町立東ときわ台小学校 [大阪府豊能郡]
内 容：バタフライガーデンとトンボの住む池

場 所：和泉市立南横山小学校 [大阪府和泉市]
内 容：バタフライガーデン

場 所：京都市立嵐山東小学校 [京都市右京区]
内 容：トンボの住む池

場 所：橿原市立欽傍中学校 [奈良県橿原市]
内 容：川的环境整備

日経サイエンス社との共催 第10回KOSMOSフォーラム

第10回KOSMOSフォーラムを、日経サイエンス社と共催し、事前告知並びに事後の概要報告を日経サイエンス誌上で行いました。



理事会 2006年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第49回理事会	平成18年 4月1日(土)	虎ノ門バストラル	会長・副会長・理事長等の選任に関する件
第50回理事会	平成18年 6月21日(水)	経団連会館	平成17年度事業報告及び収支決算の件
第51回理事会	平成18年 7月24日(月)	帝国ホテル	評議員の委嘱の件 2006年(第14回)花の万博記念「コスモス国際賞」 受賞者の承認の件
第52回理事会	平成19年 3月23日(金)	経団連会館	平成19年度事業計画及び収支予算の件 理事長の選任の件 役員の報酬の件

評議員会 2006年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第25回評議員会	平成18年 4月1日(土)	虎ノ門バストラル	理事の追加選任に関する件 評議員会長の選任に関する件
第26回評議員会	平成19年 3月14日(水)	千里ライフサイエンス センタービル	平成19年度事業計画及び収支予算の件 理事の選任の件

2006年度決算

貸借対照表総括表 平成19年3月31日現在

単位:円

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
I 資産の部					
1.流動資産合計	314,820,991	130,961,412	9,567,560	△140,528,972	314,820,991
2.固定資産					
(1)基本財産合計			800,000,000		800,000,000
(2)特定資産合計	320,080,000	9,958,911,000			10,278,991,000
(3)その他の固定資産合計	6,388,959				6,388,959
固定資産合計	326,468,959	9,958,911,000	800,000,000		11,085,379,959
資産合計	641,289,950	10,089,872,412	809,567,560	△140,528,972	11,400,200,950
II 負債の部					
1.流動負債合計	35,237,297	130,961,412	9,567,560	△140,528,972	35,237,297
2.固定負債合計	320,080,000				320,080,000
負債合計	355,317,297	130,961,412	9,567,560	△140,528,972	355,317,297
III 正味財産の部					
1.指定正味財産合計		9,958,911,000	800,000,000		10,758,911,000
(うち基本財産への充当額)			(800,000,000)		(800,000,000)
(うち特定資産への充当額)		(9,958,911,000)			(9,958,911,000)
2.一般正味財産	285,972,653				285,972,653
正味財産計	285,972,653	9,958,911,000	800,000,000		11,044,883,653
負債及び正味財産合計	641,289,950	10,089,872,412	809,567,560	△140,528,972	11,400,200,950

正味財産増減計算書総括表

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

単位:円

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部					
1.経常増減の部					
(1)経常収益					
基本財産運用益			38,440,000		38,440,000
特定資産運用益	15,643,246	499,075,396			514,718,642
雑収益	550,750				550,750
他会計からの繰入額	538,515,396			△538,515,396	
基本財産会計からの繰入額	39,440,000			△39,440,000	
記念基金会計からの繰入額	499,075,396			△499,075,396	
有価証券評価益	613,500				613,500
特定資産評価益	5,050,000				5,050,000
事業推進引当資産評価益	5,050,000				5,050,000
経常収益計	560,372,892	499,075,396	38,440,000	△538,515,396	560,372,892
(2)経常費用					
事業費	378,667,921				378,667,921
管理費	106,634,009				106,634,009
他会計への繰出額		499,075,396	38,440,000	△538,515,396	
経常費用計	485,301,930	499,075,396	38,440,000	△538,515,396	485,301,930
当期経常増減額	75,070,962				75,070,962
2.経常外増減の部					
(1)経常外収益計					
(2)経常外費用計					
当期経常外増減額					
当期一般正味財産増減額	75,070,962				75,070,962
一般正味財産期首残高	210,901,691				210,901,691
一般正味財産期末残高	285,972,653				285,972,653
II 指定正味財産増減の部					
特定資産評価益		758,911,000			758,911,000
当期指定正味財産増減額		758,911,000			758,911,000
指定正味財産期首残高	9,200,000,000	800,000,000			10,000,000,000
指定正味財産期末残高	9,958,911,000	800,000,000			10,758,911,000
III 正味財産期末残高	285,972,953	9,958,911,000	800,000,000		11,044,883,653

財団の概要

名称	財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition,Osaka,Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
主務官庁	農林水産省、国土交通省
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2-136

役員 平成19年3月31日現在

会長	今井 敬	(社)日本経済団体連合会名誉会長
副会長	野村明雄	大阪商工会議所会頭
理事長	豊蔵 一	(社)日本野球機構セントラル野球連盟会長
専務理事	森高正俊	常勤
常務理事	亀山 始	常勤
理事	角道謙一	農業者大学校名誉校長
理事	梶本徳彦	大阪府副知事
理事	柏木 孝	大阪市助役
理事	三好勝彦	(財)日本造園修景協会相談役
監事	北山諒一	公認会計士
監事	堀井良股	(財)大阪21世紀協会理事長

任期:平成18年4月1日～平成20年3月31日

評議員 平成19年3月31日現在

評議員会長	梅棹忠夫	国立民族学博物館顧問
評議員	青木保之	(財)首都高速道路協会理事長
評議員	麻生 渡	全国知事会会長
評議員	太田房江	大阪府知事
評議員	小林庄一郎	関西電力(株)顧問
評議員	近藤公夫	奈良女子大学名誉教授
評議員	佐々木正峰	国立科学博物館館長
評議員	佐藤安弘	キリンビール(株)相談役
評議員	関 淳一	大阪市長
評議員	堂元 光	日本放送協会大阪放送局局長
評議員	長倉三郎	日本学士院長
評議員	成家次男	(社)日本造園建設業協会顧問
評議員	畑中孝晴	(財)日本花普及センター理事長
評議員	波多野敬雄	(学)学習院院長
評議員	濱口義廣	(財)日本穀物検定協会会長
評議員	樋口武男	大阪商工会議所副会頭
評議員	松下正幸	(財)松下幸之助花の万博記念財団理事長
評議員	山出 保	全国市長会会長
評議員	山本文男	全国町村会会長

任期:平成18年4月1日～平成20年3月31日

顧問 平成19年3月31日現在

大島 靖	(財)大阪国際交流センター名誉顧問
河合良一	(財)日本花の会会長
岸 昌	大阪府立中之島図書館名誉館長
中川和雄	大阪日韓親善協会会長

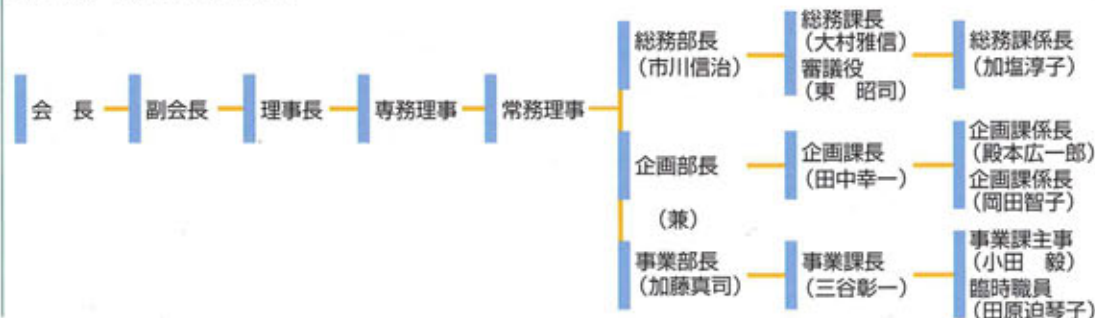
任期:平成18年4月1日～平成20年3月31日

参与 平成19年3月31日現在

泉 眞也	環境プロデューサー
岩槻邦男	放送大学教授
久野明子	(社)日米協会理事
澤田隆治	(社)全日本テレビ番組制作社連盟顧問
中村桂子	JT生命誌研究館館長
平野侃三	東京農業大学名誉教授
樋口春三	JFTD学園日本フラワーカレッジ校長
松延洋平	ジョージタウン大学客員教授
松本 洋	(財)国際文化会館顧問
山口廣三	(社)国際建設技術協会参与
ルイ・サトウ	在仏建築家

任期:平成18年4月1日～平成20年3月31日

組織 平成19年3月31日現在



博覧会に関する記念事業

1. 2007年(第15回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という)の基本理念である「自然と人間との共生」に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2007年(第15回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

平成19年度は、第15回目の受賞者の選考、決定及び2008年(第16回)の選考準備を行います。第15回の受賞者は6月下旬を目途に承認、発表し、秋季に授賞式を開催します。

2. 受賞記念講演会等

「コスモス国際賞」授賞式に関連して、受賞者の記念講演会等を開催します。

開催時期:平成19年秋

開催場所:東京と大阪の2カ所

3. 周年事業

2007年(第15回)コスモス国際賞記念事業の準備

2007年にコスモス国際賞は第15回の節目を迎えます。これを記念して歴代受賞者を招聘し、コスモス国際賞の意義や理念の重要性をさらに広めるため、歴代受賞者シンポジウム及び歴代受賞者派遣による高等学校・大学における講義等を実施します。

博覧会に関する情報、資料の整理、保存

1. 映像による日本植物誌事業(PPH:プラント・フォト・ハンティング)

花の万博当時から撮影し、蓄積している日本の植物動画映像(約850時間、約4,000種)のデータベースが平成17年度に概成しました。これを適正に保存するとともに、引き続きその具体の活用を推進します。

2. 花の万博映像の保存事業

花の万博開催時に撮影されたハイビジョン等の動画、記録映像の保存のためデジタル処理等を昨年度に引き続き実施します。平成19年度は、公式記録VHS等のデジタル化を行います。

博覧会理念の普及啓発・継承発展事業

1. 理念の継承発展に関する調査

◆伝統園芸植物の保存活用と普及啓発に関する調査

世界的にも優れた日本の伝統園芸植物について、その現状を把握し、植物の保存・活用、技術の継承、人材の育成等の方策について、有識者、関係機関、関係団体等により構成する研究会を中心に調査・検討を引き続き進めます。

2. 理念の継承発展の推進事業

◆KOSMOSフォーラム

花の万博の理念の継承発展を図るため、自然科学、人文・社会科学等の各分野を超えた学術の交流と融合を目指す学者・研究者のネットワークづくりの場となるフォーラムを開催します。

◆コスモスセミナー

花の万博の理念の継承と啓発を目的として、「コスモス国際賞」に関係する学者、知識人等を講師に招き、関係団体との共催でセミナー(講演会、自然観察教室、小学校への講師派遣)を実施します。

3. 花と緑に関する全国的な普及啓発

◆全国花のまちづくりコンクール

花の万博開催を契機に、「花と緑の国づくり及びまちづくり」を目的として、農林水産省並びに国土交通省の提唱により平成3年度に創設されたもので、平成19年度は17回目を迎えます。

主催:花のまちづくりコンクール推進協議会

◆ジャパンフラワーフェスティバル

花の万博開催を契機に、花いっぱい国土、社会並びに日常生活を実現する国民的運動として、農林水産省の提唱により平成3年度から開催されているもので、平成19年度は17回目を迎えます。

ジャパンフラワーフェスティバルさいたま2007

主催:ジャパンフラワーフェスティバルさいたま2007実行委員会

開催日:平成19年6月1日(金)~3日(日)

会場:さいたまスーパーアリーナ

◆大阪府市理念継承事業

花の万博開催の地元において実施する理念の継承・普及啓発に関する事業を、地元公共団体及び各種団体等との共催等により実施します。

◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催により実施するほか、協賛、後援等を行います。

4. 花と緑に関する国際交流の推進

花と緑に関する国際交流について、関係機関及び関係団体との連絡調整を行います。

5. 花と緑に関する調査研究等の推進

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究開発」及び「活動・行催事」を支援するため、全国公募による助成を行います。また、これまでの助成事業の「成果発表会」を開催します。

6. 情報発信運営に関する業務

◆協会等ホームページ運営等

花の万博の理念や当協会が実施する事業等への理解促進及び普及のため、当協会のホームページの充実を図るとともに、「コスモス国際賞」及び「KOSMOSフォーラム」のホームページの運営管理を行います。また、協会の概要を周知するためのパンフレット及び年次報告書等を作成します。

◆プレスネットワークの構築

「コスモス国際賞」をはじめ当協会事業の認知度を高めるため、プレスとの共催事業を実施し、ネットワークの構築を行います。

◆コスモス国際賞受賞者との連携事業等

「コスモス国際賞」の意義、受賞者の研究業績、授賞式及び記念講演会の内容等を取りまとめた報告書を作成、配付します。また、受賞者の著作物等のほか、受賞者等との連携による各種情報を収集し、これらの利活用を行います。



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<http://www.expo-cosmos.or.jp/hanahaku/>

表紙の写真：2006年（第14回）コスモス国際賞受賞者ラマン・スクマール博士が住む、
インドの代表的な植物（ハス）を授賞式用にデザインしたコサージ・ブートニアです。